

令和6年3月末で終了した経過措置事項について

- 1. 栄養管理と口腔衛生管理【施設系サービス】**
- 2. 認知症介護に係る研修の受講**
【全サービス（無資格者がいない訪問サービス（訪問入浴介護を除く）、福祉用具貸与を除く）】
- 3. 業務継続計画の策定【全サービス】**
- 4. 感染症の予防及びまん延の防止のための取組義務【全サービス】**
- 5. 虐待の発生又は再発を防止するための措置義務【全サービス】**

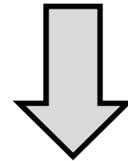
1 栄養管理と口腔衛生管理

対象

施設系サービス

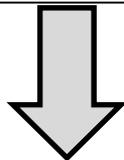
目的

入所者が自立した日常生活を営むことができるよう支援



栄養管理

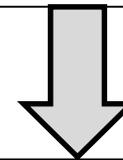
各入所者の状態に応じた
栄養管理を計画的に行う



入所者の栄養状態の維持
及び改善を図る

口腔衛生管理

各入所者の状態に応じた
口腔衛生の管理を計画的に行う



入所者の口腔の健康の
保持を図る

1 栄養管理と口腔衛生管理

栄養管理

- 入所者の栄養状態を入所時に把握し、従業者が共同して、入所者ごとの摂食・嚥下機能及び食形態に配慮した栄養ケア計画を作成する。
※栄養ケア計画の作成に当たっては、施設サービス計画との整合性を図ること。
- 入所者ごとの栄養ケア計画に従い、管理栄養士が栄養管理を行うとともに、入所者の栄養状態を定期的に記録する。
- 入所者ごとの栄養ケア計画を定期的に評価し、必要に応じて当該計画を見直す。

口腔衛生管理

- 歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が施設の介護職員に対し、口腔衛生の管理に関する技術的助言及び指導を年2回以上行うこと。
- 上記の技術的助言及び指導に基づき、以下の事項を記載した、入所者の口腔衛生の管理体制に関する計画を作成するとともに、必要に応じて当該計画を見直すこと。
 - ①助言を行った歯科医師
 - ②歯科医師からの助言の要点
 - ③具体的方策
 - ④施設における実施目標
 - ⑤留意事項、特記事項

2 認知症介護に関する研修の受講

対象	全サービス（無資格者がいない訪問サービス（訪問入浴介護を除く）、福祉用具貸与を除く）
----	--

目的

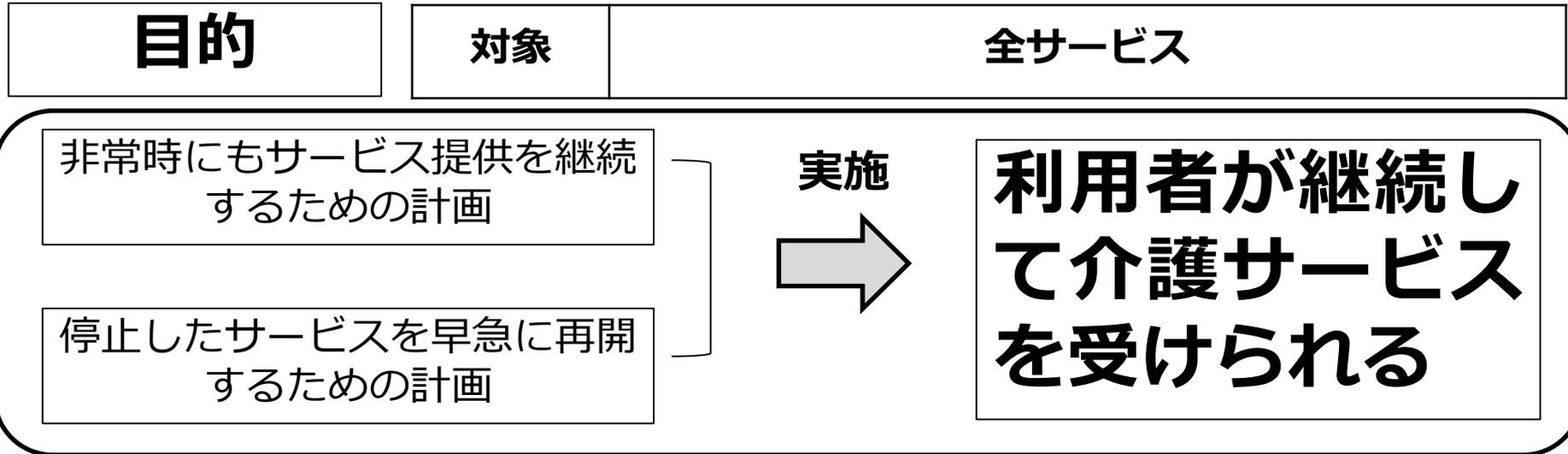
介護に関わる全従業員の認知症対応力を向上させること

- 介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者に対し、認知症介護に関する研修を受講させるために必要な措置を講じること。
※令和6年度末までに該当者は研修を受講している必要があるため、指定更新等で勤務表を提出する際、該当者の研修受講修了書等の提出を求めます。
- 新たに採用した従業員が資格を有していない場合、採用後1年を経過するまでに研修を受講させること。

※下記の資格を持つ者は、研修受講義務付けの対象外

看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、実務者研修修了者、介護職員初任者研修修了者、生活援助従事者研修修了者、介護職員基礎研修課程又は訪問介護員養成研修一級課程・二級課程修了者、社会福祉士、医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、管理栄養士、栄養士、あん摩マッサージ師、はり師、きゅう師

3 業務継続計画の策定



主な事項

- 業務継続計画の策定，定期的な研修及び訓練（シミュレーション）の実施。
 - 定期的な業務継続計画の見直し，必要に応じた変更
- ★いずれも、令和6年4月1日より義務化**

居宅療養管理指導：経過措置3年間延長（令和9年3月31日まで）

3 業務継続計画の策定

業務継続計画

以下の項目等を記載
する必要がある

感染症に係る業務継続計画

- 平時からの備え
(体制構築・整備, 感染症防止
に向けた取組の実施, 備蓄品
の確保等)
- 初動対応
- 感染拡大防止体制の確立
(保健所との連携, 濃厚接触者
への対応, 関係者との情報共
有等)

災害に係る業務継続計画

- 平常時の対応
(建物・設備の安全対策, 電
気・水道等のライフラインが
停止した場合の対策, 必要品
の備蓄等)
- 緊急時の対応
(業務継続計画発動基準, 対応
体制等)
- 他施設及び地域との連携

3 業務継続計画の策定

研修の実施

- 平常時の対応の必要性や、緊急時の対応にかかる理解の励行を行う
- 定期的な職員教育の開催
 - ※サービスの種別に応じ、年1回又は年2回以上
- 新規採用時には別に研修を実施
- 研修の実施内容の記録
- 感染症の業務継続計画に係る研修については、感染症の予防及びまん延防止のための研修（後述）と一体的に実施することも可

訓練（シミュレーション）の実施

- 施設内の役割分担の確認、感染症や災害が発生した場合に実践するケアの演習等の定期的な実施
 - ※サービスの種別に応じ、年1回又は年2回以上
- 感染症の業務継続計画に係る訓練については、感染症の予防及びまん延防止のための訓練（後述）と一体的に実施することも可
- 訓練の実施は、机上を含めその実施方法は問わない
- 机上及び実地で実施するものを適切に組み合わせながら実施

3 業務継続計画の策定

参考ガイドライン

厚生労働省HP：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/douga_00002.html

(参考) 介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）ガイドラインについて

- 介護サービスは、利用者の方々やその家族の生活に欠かせないものであり、感染症や自然災害が発生した場合であっても、利用者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供されることが重要。
- 必要なサービスを継続的に提供するためには、また、仮に一時中断した場合であっても早期の業務再開を図るためには、業務継続計画（BusinessContinuityPlan）の策定が重要であることから、その策定を支援するため、介護施設・事業所における業務継続ガイドライン等を作成。

(令和2年12月11日作成。必要に応じて更新予定。)

掲載場所：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/taisakumatome_13635.html

介護施設・事業所における新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン

❖ ポイント

- ✓ 各施設・事業所において、新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応や、それらを踏まえて平時から準備・検討しておくべきことを、サービス類型に応じた業務継続ガイドラインとして整理。
- ✓ ガイドラインを参考に、各施設・事業所において具体的な対応を検討し、それらの内容を記載することでBCPが作成できるよう、参考となる「ひな形」を用意。

❖ 主な内容

- ・ BCPとは ・ 新型コロナウイルス感染症BCPとは（自然災害BCPとの違い）
- ・ 介護サービス事業者に求められる役割 ・ BCP作成のポイント
- ・ 新型コロナウイルス感染（疑い）者発生時の対応等（入所系・通所系・訪問系） 等



介護施設・事業所における自然災害発生時の業務継続ガイドライン

❖ ポイント

- ✓ 各施設・事業所において、自然災害に備え、介護サービスの業務継続のために平時から準備・検討しておくべきことや発生時の対応について、サービス類型に応じた業務継続ガイドラインとして整理。
- ✓ ガイドラインを参考に、各施設・事業所において具体的な対応を検討し、それらの内容を記載することでBCPが作成できるよう、参考となる「ひな形」を用意。

❖ 主な内容

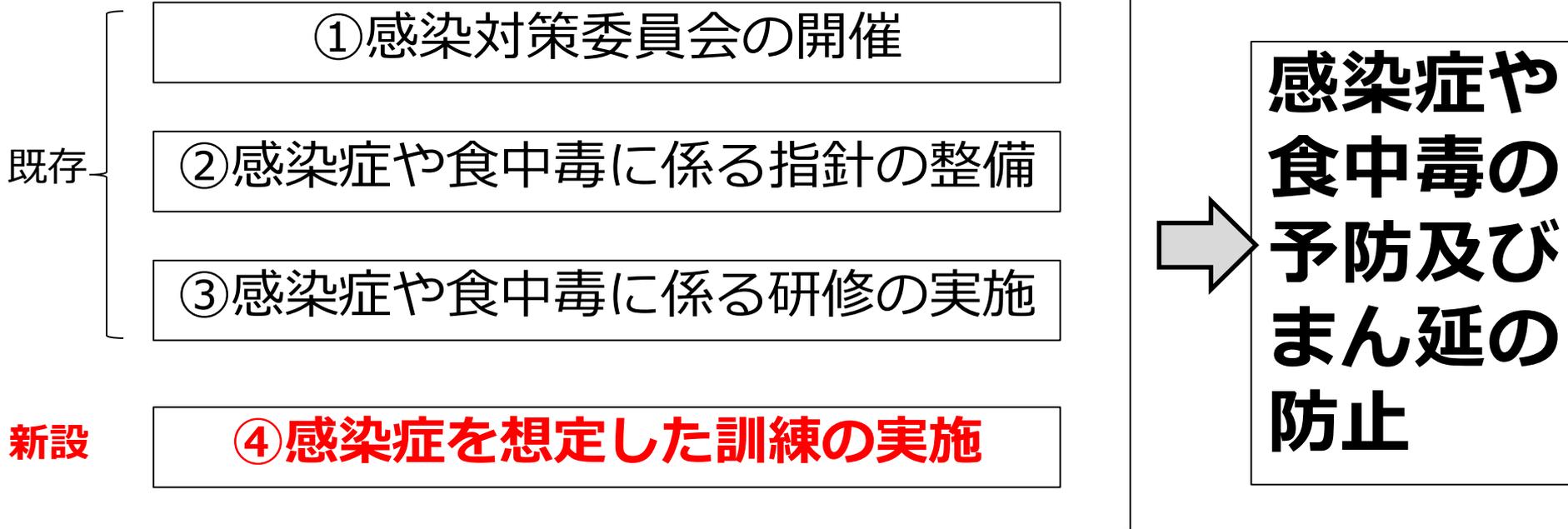
- ・ BCPとは ・ 防災計画と自然災害BCPの違い
- ・ 介護サービス事業者に求められる役割 ・ BCP作成のポイント
- ・ 自然災害発生に備えた対応、発生時の対応（各サービス共通事項、通所固有、訪問固有、居宅介護支援固有事項） 等



4 感染症の予防及びまん延の防止のための取組義務

目的	対象	全サービス (施設サービスは一部既に規定済み)
-----------	-----------	----------------------------

【施設系サービス】



★訓練の実施は、令和6年4月1日より義務化

4 感染症の予防及びまん延の防止のための取組義務

目的	対象	全サービス (施設サービスは一部既に規定済み)
-----------	-----------	----------------------------

【その他のサービス】

(訪問系, 通所系, 短期入所系, 福祉用具貸与, 居住系)

新設

① 感染対策委員会の開催

② 感染症に係る指針の整備

③ 感染症に係る研修の実施

④ 感染症を想定した訓練の実施

感染症の
予防及び
まん延の
防止

★いずれも令和6年4月1日より義務化

4 感染症の予防及びまん延の防止のための取組義務

① 感染対策委員会の開催

- 幅広い職種により構成する
- 構成メンバーの責務及び役割分担を明確にするとともに、感染対策担当者を決めておくことが必要
- 定期的を開催するとともに、感染症が流行する時期等を勘案して必要に応じ随時開催
 - ※サービスの種別に応じ、おおむね6月又は3月に1回以上
- テレビ電話装置等を活用して行うことも可

② 感染症に係る指針の整備

- 平常時の対策及び発生時の対応を規定
- 記載内容の例は、「介護現場における感染対策の手引き」を参照すること
- 厚労省HP

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/taisakumatome_13635.html

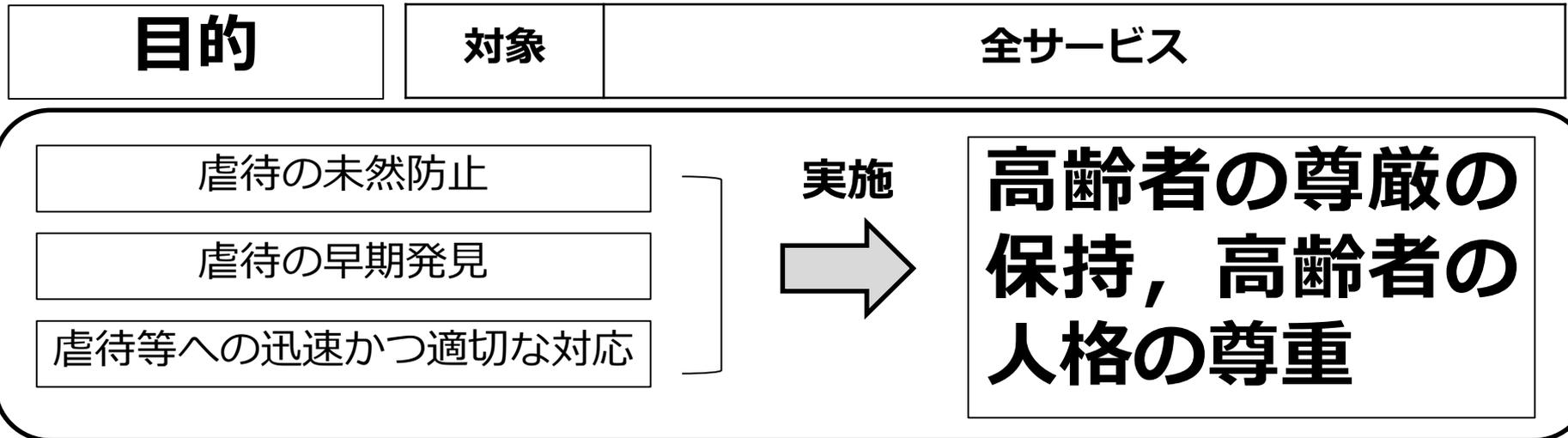
③ 感染症に係る研修の実施

- 感染対策の基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するとともに、指針に基づいた衛生管理の徹底や衛生的なケアの励行を行う
- 定期的な職員教育を開催
 - ※サービス種別に応じ、年1回又は年2回以上
- 研修の実施内容についても記録すること
- 研修は、厚労省「介護施設・事業所の職員向け感染症対策力向上のための研修教材」等を活用するなど、施設内での研修で差し支えない

④ 感染症を想定した訓練の実施

- 平時から、実際に感染症が発生した場合を想定し、発生時の対応について、定期的に訓練を行うこと
 - ※サービス種別に応じ、年1回又は年2回以上
- 指針及び研修内容に基づき、施設内の役割分担の確認や、感染対策をした上でのケアの演習などを実施すること
- 訓練の実施は、机上を含めその実施方法は問わない
- 机上及び実地で実施するものを適切に組み合わせながら実施

5 虐待の発生又は再発を防止するための措置義務



主な事項

- ①虐待防止のための対策を検討する委員会の定期的開催
 - ②虐待防止のための指針の策定
 - ③虐待の防止のための従業者に対する研修の実施
 - ④虐待の防止に関する措置を適切に実施するための担当者の設置
 - ⑤運営規程に虐待の防止のための措置に関する事項を記載
- ★いずれも令和6年4月1日より義務化

居宅療養管理指導:経過措置3年間延長(令和9年3月31日まで)

5 虐待の発生又は再発を防止するための措置義務

① 虐待防止検討委員会の定期的開催

- 管理者を含む幅広い職種で構成
- 定期的な開催
- テレビ電話装置等を活用して行うことも可
- 委員会で得た結果（施設における虐待に対する体制，虐待等の再発防止策等）は，従業者に周知徹底を図ること

② 虐待防止のための指針の策定

以下のような項目を盛り込むこと

- イ 施設における虐待の防止に関する基本的考え方
- ロ 虐待防止検討委員会その他施設内の組織に関する事項
- ハ 虐待の防止のための職員研修に関する基本方針
- ニ 虐待等が発生した場合の対応方法に関する基本方針
- ホ 虐待等が発生した場合の相談・報告体制に関する事項
- ヘ 成年後見制度の利用支援に関する事項
- ト 虐待等に係る苦情解決方法に関する事項
- チ 入所者等に対する当該指針の閲覧に関する事項
- リ その他虐待の防止の推進のために必要な事項

5 虐待の発生又は再発を防止するための措置義務

③虐待防止のための従業者に対する研修の実施

- 虐待等の防止に関する基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発
- 指針に基づいた研修プログラムを作成
- 定期的な研修の実施
 - ※サービス種別に応じ、年1回又は2回以上
- 新規採用時には必ず虐待の防止のための研修を実施
- 研修の実施内容についても記録することが必要
- 研修の実施は施設内での研修で可

④虐待防止に関する措置を適切に実施するための担当者の設置

- 専任の担当者の設置
- 虐待防止検討委員会の責任者と同一の従業者が務めることが望ましい

⑤ 運営規程に虐待の防止のための措置に関する事項を記載

- 虐待の防止に係る，組織内の体制（責任者の選定，従業者への研修方法や研修計画等）
- 虐待又は虐待が疑われる事案が発生した場合の対応方法等

→これらの事項を運営規程で定めておく必要がある。